

次は昼食後、釧路湿原の広さを体感するためにぜひ訪れたいと思っていた「温根内ビジターセンター」を訪問した。湿原の西の端にある当所は、その周辺に3kmほどの遊歩道（木道）があり、センターで現在の湿性植物情報などを確認した後木道を歩き始めた。時刻は13時半頃、天気は晴れ、爽やかな風が吹き絶好の探索日和。最初はハンノキ林の中を歩くが、更に歩くと目の前が開け、広大な湿原が現われる。まさに感動の一瞬だった。木道沿いには「谷地まなこ」があり各所の湿性植物を見ることが出来た。「谷地まなこ」とは、湿原内に存在する底なし沼のようなもので、深さは3m以上に達し、湿原に侵入したエゾジカが溺れて死ぬこともあるそうだ。木道の傍らには湿性植物も生えており、目を楽しませてくれた。(写真—7~10) 2時間ほどかけてゆっくり木道を歩き、湿原の広さを十分味わうことが出来た。ビジターセンターに戻り、少し休んで16時頃センターを出て、道道243号線、1060号線経由で湿原の東側に出ることにした。このルートは湿原の北部丘陵沿いに通っており、1060号は、湿原の東側を通る国道391号線と合流するまでの距離が10km程度であるが、其内の4km程度は未舗装の道路となっている。未舗装の道路を土煙を上げながら長い距離を走る経験も初めてのようだが、車がSUV車であったので快適なドライブであった。途中で釧路川を渡るための橋梁(二本松橋)があるが、写真-11はその橋上から撮影したものである。自然河川に近い釧路川を撮影できたのはここだけであり、少し残念であった。(この橋梁は、近年洪水被害を受けて架け替えられた為工事に伴い周辺が荒れている。)この橋から1.5km程度走ると国道391号線に合流するが、そのすぐ手前に釧網(せんもう)線を横切る踏切「コッタ口踏切」があり、撮影ポイントとして人気がある。冬期には「SL冬の湿原号」が走る。日も大分傾き、国道391号を釧路へ戻る。これで一応湿原を一周したことになる。(一周70kmほど)釧路に着いたのは18時半頃、ホテルに帰る前に夕食を市の中心街ある複合施設「M00」にある「魚政」で郷土料理「さんまんま」(写真-12)を食すことにした。サンマは今、高級魚!安くて美味であった。ホテルへ戻ったのは20時前、今日は天気も最高で目的を十二分に達成できた。

【6月3日】

欲を言えば切りがないが、湿原は昨日十分堪能したことにして今日は、午前中釧路市周辺を見て、午後アポイ岳に向けて出発することにした。



写真-7 ハンノキ林から湿原へ



写真-8 広大な釧路湿原



写真-9 「谷地まなこ」を体験



写真-10 湿性植物・ミツガシワ